

の配分などを中心にして)あわせて漁業が存在するが故に農業がどんな特色を有しているかを述べた。

結 論、漁業中心の地域性

以上のように自然、人文環境を考察し更にその上に展開する産業活動に目を向けてきたのであるが、それにより明らかにされたと思われる御前崎地方の漁業を中心とする地域性を不完全ながらまとめてみた。ごく簡単に云えば、御前崎地方は御前崎遠洋漁業従事者の *Bed Town* 的役割をしているということができると思う。

この性格は、この地方の遠洋漁業が大資本のよとにいとなまれるものではなく、伝統的な地方資本及び地元労力による中企業的漁業であるという特色や、この地方の交通立地的環境によつてとたらされるものであることは勿論であるが更に御前崎地方が駿河湾岸の一連の漁業地帯に含まれていることによつてと考えられる。

つまり、根拠地とし得る漁港や水産都市の比較的近くに存在しているため、現在のような形の漁業が存在を続けられるのである。御前崎地方は以上のような特色ある遠洋漁村としての地域性を有するのである。

(以上)

広島県芦田川中流及び下流沖積地の 地理学的考察

延岡 和子

論文の構成は次の様になつてゐる。

第一章 調査地域の概説

- I、自然環境
 - Ia 位置、交通
 - Ib 地形
 - Ib1 地形概説
 - Ib2 地形細説
 - Ic 地質概説
 - Id 気象
 - Id1 気温
 - Id2 風向及び風速
 - Id3 降水量
- II、人文
 - IIa 福山藩の新田開拓
 - IIb 福山臨海工業地帯整備事業
 - IIc 干拓地に成立する農業

—— 福山市川口農協地区 ——

IIc1 福山市農業の概説

IIc2 川口農協地区の沿革

IIc3 川口農協地区の土地条件

IIc4 干拓地に成立する農業の概観

第二章 都市化に伴う周辺農業の変化

I 福山市の都市的性格及び都市化の内容

Ia 人口増加

Ib 産業構造の変化

Ic 主要産業

Ic1 工業

Ic2 商業

II 都市化に伴う周辺農業の変化

—— 福山市川口農協地区 ——

III 本章のまとめ

以上

調査地域は芦田川の中流及び下流地域に発達する2つの沖積平野（神辺平野と福山平野）で広島県の東端に位置し、一般に山がちで平野に乏しい広島県においては稀な平野地帯となっている。

芦田川は中国山地の南斜面を流れ、全体としては北西から南東に流れているが、中国山地を刻む基盤目状の断層構造に支配されて、所々で直角に流路を変更している。神辺平野の出口のところにおいても直角に流路を変更しているが、この流路変更は高屋川にそう、N-E - S-W 方向の断層によるものと思われる。従つて神辺平野はこの断層と芦田川南岸に続く断層が出合うところに出来た断層角盆地で、各地形面は、北部山地より流入する小河川によつて形成された扇状地と芦田川本流の河岸沖積地及び芦田川の堆積の直接に及ばない南西部分の低湿地よりなるものと考えた。

又、神辺平野は沖積の海進時には入江の状態であつたとする記述も見出されるが、この記述を肯定するような積極的資料は現在のところ見あたらない。

福山平野は沖積の海進時には山麓手で海水が侵入し、近世初頭までは殆ど海面であつたもので、芦田川のデルタの前進とデルタの前面の干拓によつて人工的に陸化されて現状に至つたものと考えられる。

干拓事業は近世初頭、水野氏が福山に築城以来盛んに行われてきた。現在福山の市街地ののつている部分が三角洲面で、他は大体干拓によつて陸化された所である。従つて、福山平野の地形分類には干拓を1つの単位としてとり入れた。

干拓地という条件は農業面において大きく作用しているものと考え、福山市の川口農協地区をとりあげて干拓地に成立する農業の概観を見た。しかし最後の干拓が終つて100年近くたつた今では、技術の進歩とあひまつて、あまり特殊な農業形態と残つておらず、文献によつて過去の事実を列挙した結果になつた。

オ2章では「ある地方都市がその都市規模を拡大するにつれて、周辺の農業はどのように変化してきたか」というテーマのもとに、同じく川口農協地区をとりあげて考察した。

農業立地は、いかなる内容においてても都市市場を経済的中心として構成されざるを得ないし、都市という農産物の市場が農産物の需給及び価格の決定にきつめて重要な地位を占めていることは明らかである。しかし、都市がその周辺の農域に影響をよつのは、単に農産物の需給を通してだけでなく、都市において発達している資本主義経済は、その周辺の農域に反映して農業の分解を促している。調査不足、知識不足によつて、結論を出すところまではいかなかつたが、川口地域においては、逆立ちしたチューネン型的配置をよつて、都市化に対応してきているのではないかと私は考えた。

尚、最近臨海工業地帯の造成が全国的に盛んであるが、福山港において新工業地帯建設のための土地造成工事が現在着々と進められている。この埋立工事は、昭和37年3月スタートし、40年末までにはその全工程を完了する予定であるが、220万坪、総事業費150億円という大規模なものである。日本鋼管福山製鉄所の誘致が決定しているが、これにより、福山市の将来への大きな発展が予想される。

「静岡県榛原郡川根町に於ける茶業の地理学的考察」

原 千里

調査地域は、東海道線金谷駅より、大井川鉄道で30分程の大井川中流に位置する榛原郡川根町に属する。赤石山脈は、赤石岳を主峰とし、北々東より南々西に走っているが、調査地域はその余脈をうけて、畑3.2%、水田0.4%、地域中のおおむね山地が占めている山間地帯である。地形の制約上より、静岡県下で最も専業農家率は極めて低く、山林業を兼業とするオ1種、オ2種兼業農家が多い。耕地面積に於ける百分比は、水田13.6%、普通畑25%、茶園60%であり、茶栽培農家率が90%以上の商業的栽培地域